

しんぎょう

真楽寺報

浄土真宗本願寺派（西本願寺）

令和六年十月

極重悪人唯称仏

我亦在彼摄取中

煩惱障眼雖不見

大悲無倦常照我

（極重の悪人ただ仏を称すべし）

我また彼の摄取の中にあれども
煩惱まなこをさへて見たてまつ
るにあたはずといへども

大悲ものうきことなくして
つねにわれを照らしたまふ

（『正信念仏偈』）

浄土真宗の日常の勤行は『正
信念仏偈』をお勤めします。

この中に源信和尚のお言葉が
出てきます。そう、あの『往生
要集』で有名なお方です。『往
生要集』というと、地獄の話ば
かりと思っている人が多いよう
ですが、それはとんでもない誤
解でして、その名の通り阿弥陀
如来のお浄土に往生することの
要の文が述べられています。そ
して、源信和尚はこの『往生要
集』の中で「極重の悪人は、他

出来るとか、出来ないとかいう
ことではなく、私の本質を見通
された言葉でした。

浄土真宗本願寺派（西本願寺）
令和六年十月
の方便なし。ただ仏を称念して、
極楽に往生することを得。」と
仰って、私たちにお念仏を称え
ることを勧めておられます。
さどりの世界を知るための、
心を静かな状態に定めてお浄土
の姿、阿弥陀如来の姿を思い浮
かべる修行があります。残念で
すが、私には雑念を払うという、
簡単そうなことがなかなか出来
ないのです。家のこととか、仕
事のこととか、世間の様々なこ
とが気になってしょうがない、
心が常に動き続ける者です。そ
のような修行はとても勤まりま
せん。この私のような者に、難
行、聖道の教えではなく、易行、
浄土往生のお念仏が勧められて
いました。

ところで、ここに極重の悪人
と言う表現が出てきます。なか
なか厳しい言葉です。「修行が
出来ないからといって極悪人と
呼ばれてもなあ」と思いません
でしょうか。しかし、この悪と
は、私の表の姿、例えば修行が

幼い子どもがオモチャで遊ん
でいました。そこへ少し年上の
お兄ちゃんが「それはさつき僕
が遊んでいたものだから返せ」
と、取り上げていました。そこ
から二人で、僕のだ、僕のだと
大喧嘩が始まりました。自分の
ものと思いついたら絶対放手
そうとはしない欲望を丸出しに
して、凶悪さをさらけ出して争
っていました。大人はこんな子
どもたちに、一緒に仲良く遊び
なさい。欲ばらないで譲り合い、
分け合いなさいと教育をしま
す。

しかし、その大人の世界では、
そのような「正義」に「例外」
をつくりだします。たとえ、奪
つてはいけない、人を傷つけて
はいけない、うそをついてはい
けない等の法律があっても、そ
れを定めている主体(国)が、「正
しいこと」を実行するためにそ
の法を停止してしまうことだっ
てあります。

例えば、「ここは昔、私の先
祖が住んでいたところだから私

の土地だ」と主張し、二千年も
前の約束を言い張って、今まで
住み続けてきた人たちを追い出
して新たな国が作られたりしま
す。これはほんの一例で、仲間
内では善人として賢い振る舞い
が出来るのに、外側に向かつて
は、差別、暴力、時には大虐殺
さえ簡単にやっつてのけてきたの
が人間の歴史でした。

縁が催せばどんな姿にもなる
私たちです。賢く生きたいのに
愚を重ねてしまう、正しいこと
をしたつもりが人を苦しめてい
たりと、世間を生きることと思
い通りになりません。自分の命
でありながらも、思うままにな
らない現実には苦悩し、悲歎する
私たちを、如来の光明は倦くこ
となく常に包み込んでいて下さ
います。光そのものは見えなく
とも、光のはたらきが見るべき
ものを照らし出します。阿弥陀
如来の光明によって顕わになる
のは、その光によって浄土に生
まれる者として生まれ護られる
姿です。

如来の本願を聞き遂げて、そ
のはたらきを口に称えます。
南無阿弥陀仏、と。

◎秋の法要のお知らせ

左記の通り『秋の法要』をお勤めします。

御講師は、奈良県・勝光寺住職、花岡静人先生をお招きしています。お誘い合わせてご参詣下さい。

記

・宗祖親鸞聖人御命日法要

十一月十六日(土)午前九時半

・納骨堂永代経法要

十一月十六日(土)午後二時

・聞信のつどい

十一月十七日(日)午前九時半

～十八日(月)午前九時半

・初参式

十一月十七日(日)

午前八時四十分

・富の原説教所報恩講

十一月十七日(日)午後二時

御講師

奈良県吉野 勝光寺住職

花岡静人師

☆『親鸞聖人御命日法要』

十六日は宗祖親鸞聖人の御命日です。十一月は秋の法要にかねてお勤め致します。

☆『納骨堂永代経法要』

納骨堂にご縁の方全ての仏徳を讃嘆供養する法要をお勤めします。納骨堂をご利用でない方も、どうぞ、ご一緒に聴聞下さい。

☆『聞信のつどい』

真楽寺が大村に御教化の営みを始めましてから四十年、これまでに沢山の御門徒の皆様が、真楽寺にご縁を結んで下さいました。不思議なご縁を頂き、この仏法に出会い、み教えを聞き得たこと、そして、御報謝を重ねて行くことを慶ぶ法要として『聞信のつどい』をお勤め致します。

ご家族、法友、お誘い合わせてご参詣、お聴聞下さい。

☆『初参式』 はじまり

赤ちゃんが生まれてきて最初のお参りです。仏様のお慈悲に包まれて生きていく子供、そしてその親、あるいは祖父母としての新たな人生の出發を、如来様に奉告する式です。受式のお子さんを募集しています。御希望の方は十一月十日(日)までに真楽寺にご連絡下さい。

※秋の法要に向けて境内本堂のお掃除、椅子並べ、幔幕張りなどの準備をします。ご都合つかれる方はご協力下さい。

日時 十一月十四日(木) 九時から

◎富の原真楽寺(富の原一・四三・一四)

親鸞聖人報恩講のお知らせ

富の原真楽寺では、一月の親鸞聖人御正忌に先立ち、お取り越しとして、報恩講をお勤め致します。近隣の方はご参詣下さい。

◎年末の行事のお知らせ

☆年末大掃除・餅つき

十二月二十九日(日)

午前九時から

☆除夜会

十二月三十一日(火)

午後五時より一時間

◎令和七年一月の行事のお知らせ

☆元日会

令和七年一月一日(水)

午前十時より一時間

☆仏具おみがき

期日 一月五日(日)

午前九時から十一時まで

☆親鸞聖人御正忌報恩講

期日 一月十三日(月)から

十六日(木)まで

時間 午前九時半より

尚、十五日は午後七時よりの大速夜のお勤めもあります。

毎月の行事案内 (二月、八月を除く)

◆月例法座

毎月第一日曜日

午前九時半より

◆家族礼拝

毎月第二日曜日

午前九時より

◆親鸞聖人御命日法要

毎月十六日

午前九時半

◆門徒会(御法義歓談会)

毎月十六日

御命日法要に引続き

◆富の原月例法座

毎月第三日曜日

午後二時より

本願寺長崎教堂報恩講御案内

本願寺長崎教堂(諫早市新道町)で、報恩講がお勤まりになります。どうぞお参り下さい。

期日 十一月二十七日(水)

午後二時 速夜法要

午後五時三十分

仏教讃歌のつどい

十一月二十八日(木)

午前十時 日中法要

御講師 愛媛県 深水健司師

※詳しい案内は真楽寺にごさいます。

大村市木場一丁目八五番地二一
真楽寺 電話五二一五〇一八

<https://www.shingyouji.com/>